

行政常任委員会会議録

平成 30 年 7 月 24 日（火曜日）

午前 10 時 30 分開議

委員会室

◎日程

1 企画課

（１）「夕張まちづくり寄附条例」平成 29 年度報告書について

（２）地域おこし協力隊員の採用について

2 建設課

（１）工事請負契約の締結について

3 産業振興課

（１）北海道日本ハムファイターズ誕生 15 t h プロジェクト「サマーベースボールフェスティバル」について

4 保健福祉課

（１）市立診療所等の建設予定地について

◎出席委員（8 名）

大 山 修 二 君

高 間 澄 子 君

本 田 靖 人 君

小 林 尚 文 君

今 川 和 哉 君

熊 谷 桂 子 君

君 島 孝 夫 君

千 葉 勝 君

◎欠席委員（0 名）

【委員長挨拶】

（大山委員長）

皆さん、おはようございます。間もなく委員会を開催いたしますが、携帯電話等をお持ちの方は着信音に御配慮をいただきますよう、よろしくお願いを申し上げます。

それでは、ただいまより行政常任委員会を開催いたします。

本日の出席委員は、8名全員であります。ほかに、議長が出席されております。

理事者側からは両理事、総務課長のほか、説明員として課長等が出席されることとなっております。

本日の委員会の進め方についてであります。企画課、建設課、産業振興課、保健福祉課の順に報告を受け、これに対する質疑を行ってまいりたいと思いますが、そのように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議がありませんので、そのように取り進めてまいります。

それでは、企画課より報告を受けてまいります。

【企画課】

1. 「夕張まちづくり寄附条例」平成29年度報告書について
2. 地域おこし協力隊員の採用について

(企画課長)

おはようございます。企画課でございます。本日は、「夕張まちづくり寄附条例」平成29年度報告書について、もう1点、地域おこし協力隊員の採用について、2点報告をさせていただきます。

まず1点目のまちづくり寄附条例につきましてですけれども、夕張市では平成19年2月にまちづくり寄附条例を制定いたしまして、全国から集まる寄附金を幸福の黄色いハンカチ基金に積み立てているところでございまして、その基金を地域の振興策ですとか、地域の再生の事業に充てているところでございます。

なお、近年では株式会社トラストバンクとの連携協定に基づいて、地域製品の魅力化ですとか、魅力発信ですとか、あとは昨年度実施いたしましたガバメントクラウドファンディングの取り組みなど、そういったところにも力を入れているところでございます。

それでは、平成29年度の寄附受領に基づく基金の運用状況について御説明申し上げます。

資料1をめくっていただきまして、1ページになります。

項目2番でございすけれども、平成29年度の寄附金の受入れ状況をごらんいただきたいと思います。上から、夕張市の地域再生及び住民の福祉の増進に必要な事業とありますけれども、ここから1、2、3、4、5、6、7項目目まで、条例に基づく寄附者が選べる寄附項目に、それぞれ該当するものの寄附金額を計上してございます。

そのほかに特定団体、特定事業を指定したもの、ガバメントクラウドファンティング、昨年度、夕張後項魅力化プロジェクトということで、この2項目の寄附金の受入れをしたところで、合計が3億6,002万8,446円、件数にして1万3,519件の受入れをしたところでございます。

項目3番でございますけれども、幸福の黄色いハンカチ基金の活用状況でございますが、2点目の1番金額の多いところとして、幸福の黄色いハンカチ基金助成事業以外の活用分として1億2,000万円ほど、そのほかに「寄附者が特に指定した団体」への助成分、「寄附者が特に指定した事業」への活用と、あと幸福の黄色いハンカチ基金助成事業で、5番のガバメントクラウドファンティング事業ということで、総額1億3,500万円ほど、平成29年度活用しているという状況でございます。

4番目の項目の寄附の受入れに関する状況につきましては、先ほどとほぼ同じ資料でございますので、御確認をいただければと思います。

なお、地域別の集計が表の二つ目にありますけれども、夕張市が、当然ながら夕張市外からの寄附がほとんどというところでございます。

個人・団体別に関しても、個人が多くを占めているという状況でございます。

次のページ、3ページに行ってくださいと思います。

平成29年度月別の寄附金額の推移でございますけれども、例年、同じ傾向を示すのですけれども、6月、まず少しふえるのですけれども、当該年度に夕張メロン返礼品にしておりますが、これが当該年度中に届くというのが、6月まで受けた寄附分というふうにしておりますので、ここで一度ピークが来るということになっております。そのほかに、寄附ふるさと納税の駆け込みがございます12月に寄附金額がふえるというふうになって、ふえたということになっております。

年度別の寄附額集計でございますが、平成29年度は前年度に比べまして、約5,000万円ほどふえておりまして、3億6,000万円ほどになっているということになっております。

次ページになりますけれども、特定団体・特定事業への助成・活用を希望されて寄附された金額というのが、約900万円ほどになっているということです。

次のページに行ってくださいまして、寄附を活用して実施している事業の一覧でございますけれども、幸福の黄色いハンカチ基金助成事業に活用した一覧を載せてございます。ちょっと詳細は割愛させていただきますが、御確認いただければと思います。

ページをめくっていただきまして、8ページの、繰り返しになりますが、黄色いハンカチ基金の助成事業以外の活用分として1億2,000万円ほど計上している表と、寄附者が指定した団体の活用、次ページは指定した事業への活用、ガバメントクラウドファンティングの活用というのを詳細を示しておりますので、後ほど御確認いただければと思います。

次ページになります。

それまでの平成 29 年度末までの基金のストックについて御説明をさせていただきます。

平成 19 年から 29 年度まで幸福の黄色いハンカチ基金で受入れを行っているところでございますが、それまでの寄附額、取崩額、踏まえて、表の 1 番右下になりますが、平成 29 年度末の残額は 7 億 5,439 万 7,867 円というふうになっているところでございます。

冒頭、申し上げましたが、次のページ、ガバメントクラウドファンディングの活用ということで、昨年度、高校魅力化プロジェクトを題材にガバメントクラウドファンディングということで、テーマを高校魅力化に絞って寄附金を募るという事業を実施いたしました。7 月末から 11 月いっぱいまで、11 月末まで寄附を募集いたしまして、目標金額 700 万円に対しまして、4 カ月余りで約 2,350 万円ほど、五、六十万円ほど集まったという状況でございます。

その寄附額を、寄附金を活用いたしまして、本年 4 月にオープンしたわけですが、公設塾「夕張学者キセキノ」などの整備に発注したというところでございます。

次のページごらんいただきまして、12 ページになりますけれども、参考資料でございますが、平成 29 年度の寄附金につきましては、受けた金額 3 億 6,000 万円余りと申し上げましたけれども、一方で返礼品の送付など、かかるコストもございますので、純粋な収入額というのですか、ネットの収入額が約 7 割の 2 億 5,000 万円余りというふうになってございます。事務経費を除いてですね。という状況でございます。

以上で、幸福の黄色いハンカチ基金の状況につきましては、説明を申し上げました。

続きまして、資料 2 に行ってくださいまして、地域おこし協力隊員の採用につきましてでございますが、平成 30 年 7 月 1 日に地域おこし協力隊員を採用いたしました佐々木強さん、40 代、男性でして、済みません、説明に入る前にタイトルのミスタイプがございましたので、訂正させていただきます。地域おこし協力隊員の採用ということで、委員会の委という字を削除いただければと思います。

地域おこし協力隊員につきまして、平成 30 年 7 月 1 日に採用いたしました佐々木強さん、40 代、男性でございます。札幌市より転入されて、夕張市出身の方でございます。

地域おこし協力隊員の業務といたしまして、夕張市が本年、関わり人口の創出事業ということで、総務省の関係人口創出のモデル事業に採択されたところでございます。その関わり人口を活用した集落の活性化という取組を行っていくわけですが、その関わり人口を活用した集落で活用して、集落で芽生えているコミュ

ニティの再構築の取組というのを支援するということで、協力隊員に活動していただくということにさせていただきます。

ここに載っている３点ほど、地域で芽生えている取組、ちょっとここは代表例を示させていただきましたが、こういった取組を支援していただくほか、取組を継続的な事業とするために関わり人口とのネットワーク構築、そういったものを図っていきながら、地域のNPO法人などとともに、連携してサポートを受けながら活動するというようにさせていただきます。

私の報告は以上でございます。

〔報告に対する質疑〕

(大山委員長)

それでは、これより報告に対する質疑を受けてまいります。

(千葉委員)

地域おこし協力隊員の募集の件なのですが、ホームページを見ましたら、公募期間が１週間だと認識しているのですが、観光促進の支援で地域おこし協力隊員は、今、公募しているのですが、この公募期間が２週間となっているのですが、この１週間とした理由等があれば教えていただきたいのですが。

(企画課長)

千葉委員の御質問にお答えいたします。

地域おこし協力隊員の募集期間に関しては、特に明文化されたルールはないというふうに認識をしております。また関わり人口創出の事業を、ちょっとただいま、準備中ではあるのですが、早急に取り組むという観点からも１週間という機関を設定させていただいて、募集をさせていただいているというところでございます。

(千葉委員)

１週間で応募した人数は、この方一人だったのですか。

(企画課長)

千葉委員の御質問にお答えいたします。

募集に応じただいた方は一人でございます。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(熊谷委員)

今の地域おこし協力隊員の関連なのですが、地域のNPO法人との連携というふうにあります。具体的にはどういったNPOと考えていらっしゃるのか、お願いします。

(企画課長)

資料にもございますけれども、集落で芽生えている取組というところで、ここで中心的に役割を担っていると認識しておりますNPO法人のあ・りーさだとの連携を考えております。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(小林委員)

一つ確認で、何点かお聞きしたいのですけれども、どうもこの沼ノ沢地区という分で、今あ・りーさださんっていうお話でありましたけれども、そういう中で、芽生えているコミュニティの中に、これ当然、集落で芽生えているという部分で、縮小傾向にある集落の伝統行事、それから遊休農地という部分で、交流事業の促進という形で、それで今、お話がありましたけれども、これらについて、特に集落の伝統行事というのは、やはりそれぞれの地域、地域でいろいろな行事が行われているけれども、これ、沼ノ沢だけでなく、いろいろな地域でも、当然、歴史があるわけだから、伝統行事、これは当然、イベントとかではなくて、いろいろな行事があると思われましても、これ沼ノ沢の中で縮小傾向にあるというのは、どういう部分を捉えての、当然、人口は減っているわけですから、そういう部分はわかりますけれども、どういう部分を含めての地域、特に町内がやっている部分なのか、含めて、もしそういう部分で見解があればお聞かせください。

(企画課長)

小林委員の御質問にお答えいたします。

おっしゃるとおり、沼ノ沢エリアに限らず、それぞれの地域で伝統行事というのはあると思えますけれども、今回はモデル事業ということで、たまたま、たまたまというか、芽生えている取組として、我々一つ認識している部分で沼ノ沢というエリアを選定させていただきました。

委員、おっしゃったとおり、人口減少とか、若者の減少とか、そういったところが顕著であろうということで縮小傾向にあると、ちょっとそういった書き方をさせていただいているというところでございます。

(小林委員)

人口減っている部分、わかります。芽生えている部分と、それが地域で、町内含めて、共有されている、そういう事業とか、こういう部分だよという部分が、もし例としてあれば、お聞かせください。

(企画課長)

小林委員の御質問にお答えいたします。

我々として、当然、集落コミュニティの再構築というのは全市的に取り組まれていることだと思っておりますけれども、今回、関係人口、関わり人口の事業を実施

する上で、そういった意味で言うと、沼ノ沢で、先ほど申し上げたNPO法人のあ・りーさださんなどの法人においては、市の市外の方からの、何と云うか、週末などの活動の取組というの、我々としては見えてきているのかなというところを感じておりますので、そういったところで集落で芽生えている、その地域に住んでいる人だけではなくて、市外の人たちを巻き込んだ活動といった意味で、今回の関わり人口の創出事業にもリンクしやすいのではないかとということで、集落で芽生えている取組に関わり人口を掛けあわせて、活性化していくというエリアとして考えているところです。

(小林委員)

以下のモデル的ということでお話聞きましたので、沼ノ沢地区に、地域に限定したと。それともう一つは、先ほど申し上げましたけれども、遊休農地の活用した交流事業も、それらを踏まえての関わり人口、交流人口という部分を捉えて、特にこれらの地域おこし協力隊という部分、これ多分、農業関係というのは、結構、プロ的要素が結構、あると思うのです。それで、これ農業とは書いていないのだけれども、農地を、遊休農地をという部分で書いて説明されていますけれども、これらは農業という部分で言うと、かなり専門的な知識が必要かと思えますし、そうでなければ、この農地の、遊休農地の部分というのは、どのような考え方で、これから行くのか、御説明をいただきたいと思えます。

(企画課長)

小林委員の御質問にお答えいたします。

当然、農業に関しては、幅広い知識がいるという認識をしておりますので、沼ノ沢エリアの農家の方の協力を得ながら、一方で遊休農地を活用するために、その関わり人口の方も農業と一緒に学んでいただくと、そういったことから、まず入ってもらおうかなというふうには思っております。

(小林委員)

遊休農地の関係は、これは当然、農業者の部分も含めて、リタイヤされた方もいる中で、今、入ってきている農地もあるかと思えます。ここら辺については、当然、夕張市農業委員会あるわけですから、それらの機関含めて、いろいろな選択肢があるかと思えますので、そこら辺、十分、理解した中で進めていただければと思いますけれども、お願いをいたします。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(熊谷委員)

済みません、今の同じところです。

先ほど、伝統の行事についても質問があったかと思うのですが、それに対しての答弁がなかったように思うので、お願いします。

〔「どのような、具体的な行事ということですか」と呼ぶ者あり〕
(熊谷委員)

そうです、はい。

〔「ちょっと済みません、答弁調整お願いします」と呼ぶ者あり〕
(大山委員長)

会議を再開いたします。

(企画課長)

熊谷委員の御質問にお答えいたします。

地域にそれぞれあるお祭りなどを想定しております。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(小林委員)

一つ前のハンカチ基金の関係で、ちょっとお伺いしたいと思います。

大変、寄附額が全国から寄せられている部分に感謝申し上げる部分と、これらを有効に生かしていく夕張市の部分についても、それぞれ活用、有効にされているという部分で理解したいと思えますけれども、その中で一つ、ちょっと確認をしたいのは、基金の助成事業の部分で、それぞれ 360 万円という形で、前に企画のほうからちょっとお聞きした中では、一度助成事業に対しての部分は をしているの
で、そういった部分は 1 回見直したいというような説明が、1 回あったかと思いま
す。それらが反映されて、こういうそれぞれの事業に対しての助成というか、いう
部分があるかと思えますけれども、それらが反映されているのかと、それからもう
一つは、この事業者を、昨年でしたか、集めて、 何かあったかと思えます
けれども、ちょっと私も日にちまでは覚えていないのですけれども、そこで出た意
見とか課題とかが、そういう部分で事業者が集まっていますので、そういう課題と
か要望とかもあったかと思えますけれども、それらのもしわかっていればお聞かせ
ください。

(企画課長)

小林委員の御質問にお答えいたします。

というのは、この基金事業、今の方式の……。 で言うと、地域のチ
ャレンジといった部分を、しっかり掘り起こせるように、今の基金事業に関しては、
皆様から提案はいただいた上で実施していると。そこで選定の審査会を行いまし
て、そこで評価の高かったものを選定させていただいているという状況でございま
す。

2 点目の成果報告会につきましては、3 月に実施させていただきましたけれども、
課題というのは、我々が感じたものなのか……。

〔「委員長」と呼ぶ者あり〕

(小林委員)

そういう中で、事業者がこれに申請をして、そして助成を受けるというシステムかと、当然プレゼンをして、そういう中で、事業に対しての助成額というのは出てくるかとは思いますが、その部分で、それぞれの事業が足りているのか、足りていないのか、そういう面で自分の事業はどうして、このような形で、このぐらいの金額なのかだとか、思っているより多く来たとか、そういう部分があったのかどうか。また、こういうふうにしてくれとかという要望があったのかどうかというのを聞きしたいのです。

成果ですから、成果だけでお考えがあったのか、そういう意見がなかったのかということ。

(企画課長)

成果報告会では、当然、助成金、本来、希望していた額に対して全額ではなかった市民団体の皆さんもおられましたので、当然、できうる範囲で、しっかり実施していただいたのかなというふうな感想は持っております。

当然、予算、上限ある話でございまして、この提案いただいて、コンペ方式とっているという関係で、当然、金額に対する不満はあるのかもしれませんが、その場で出たということはないと思います。

〔「具体的な要望、希望等の意見というのは、さっきありましたけれども、具体的には出ていないのですか」と呼ぶ者あり〕

(大山委員長)

よろしいですか。

(小林委員)

はい、わかりました。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(議長)

お疲れさまでございます。

地域おこし協力隊員の採用の関係で、いろいろと今の質問等、出ていたところですが、そこで7月1日採用ということでございます。それで、現在、地域おこし協力隊員の配置というのは、市役所になるのでしょうか。それとも、その連携するNPO法人、どちらに。

(企画課長)

議長の御質問にお答えいたします。

今、メインで活動しているのは、その現地の、NPO法人の所在地になります。

(議長)

はい、わかりました。

それともう1点ですけれども、業務内容の1番下のところにもNPO法人等というのが出てまいりました。それで、先ほど質問の中で、今回、地域おこし協力隊員に対しては、市が平成30年度の関係人口創出事業のモデル事業として採択をされたものであるということで説明をいただいたわけですが、これは恐らく、御承知をいただいていると思うのですけれども、当該NPO法人のほうでは、6月から、いわゆる類似の、完全に一致はしていないと思うのですけれども、類似の事業も、寄附を集めながら、今後進めていきたいということをホームページのほうで公表されているようなのですけれども、そういったものと、この地域おこし協力隊、あるいは集落活性化事業がどうかかわっているのか、全く別のものなのかということは、これは市の担当としてどのように整理をしていらっしゃるでしょうか。

(企画課長)

議長がおっしゃった、その6月から寄附を募ってというところの事業の詳細を把握はしていませんけれども、我々としてはモデル事業として採択された関係人口を明確に創出して、位置づけて、地域で一緒にものごとに取り組むというふうな事業を実施しようとしているところでございまして、NPO法人が独自でやる事業とはまた別のものだとは認識しております。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

(大山委員長)

ないようですので、これで企画課を終わります。

それでは、続いて建設課より報告を受けてまいります。

【建設課】

1. 工事請負契約の締結について

(建設課長)

おはようございます。建設課から工事請負契約の締結についてであります。

夕張市清水沢都市拠点複合施設建設工事の建築主体工事ということで、去る7月20日に入札を実施し、ピーエス三菱・坂本建設工業特定建設共同企業体が落札をいたしました。

仮契約額6億6,042万円、竣工期限は31年の12月を予定しております。

地方自治法及び夕張市議会の議決に付すべき契約に関する条例の規定により、予定価格が1億5,000万円以上ということですので、議会の議決を得ようとするものであります。

議会の議決後、本契約を行い、8月下旬、または9月の初旬に着工するという予定となっております。

以上です。

〔報告に対する質疑〕

(大山委員長)

それでは、これより報告に対する質疑を受けてまいります。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

(大山委員長)

ないようですので、これで建設課を終わります。

それでは、次に、産業振興課より、報告を受けてまいります。

【産業振興課】

1. 北海道日本ハムファイターズ誕生 15 t h プロジェクト「サマーベースボールフェスティバル」について

(産業振興課長)

それでは、産業振興課から1点御報告をさせていただきます。

北海道日本ハムファイターズ誕生 15 t h プロジェクト「サマーベースボールフェスティバル」について、御説明をさせていただきます。

資料1をごらんください。

北海道日本ハムファイターズは、北海道日本ハムファイターズ誕生 15 t h プロジェクト、サマーベースボールフェスティバル 2018 の開催を決定し、6月13日に札幌ドームで共同記者発表を行ったところであります。

まず、1ページにつきましては、ポスターということになっております。

2ページから5ページをごらんをいただければと思います。

この資料につきましては、6月13日に球団から報道関係に示されたものであります。2ページに記載のとおり、2018年、北海道日本ハムファイターズは球団が北海道に誕生し、15年目のシーズンを迎えており、一つの節目に際してこのたび『サマーベースボールフェスティバル』の開催を決定した、とのこととあります。本事業は、ファイターズの保有する野球というスポーツの資源を集約、結合し、北海道空知管内の4市町でエリアマネジメントの考え方を取り入れたコミュニティ活動を展開。企業理念「Sports Community」を食や観光とも融合させて新たな価値を創造する事業として、地域の活性化（場づくり・ひとづく

り・まちづくり）に貢献する取り組みとのことであります。

3 ページをごらんください。

日程につきましては、8 月 3 日金曜日から 6 日月曜日までの 4 日間であります。

内容につきましては、8 月 3 日正午、三笠市営球場において、熱烈！ホットサンド！プレゼンツ「稲葉篤紀軍団 v s サンドウィッチマン軍団」の野球対決を開催。また、当日、午後 6 時から、ゆうばり文化スポーツセンターにおいて、「サマーベースボールフェスティバル交流会」を開催。

次に、4 ページになりますが、8 月 4 日、午後 1 時から、夕張のサングリンスタジアムにて、プロ野球イースタン・リーグ公式戦「北海道日本ハムファイターズ v s 埼玉西武ライオンズ」の試合が開催されます。5 日、午後 0 時 30 分から岩見沢市営球場にて、同様にイースタン・リーグの公式戦が開催されます。次に、6 日、正午からは栗山町民球場において、北海道プロアマ交流戦「北海道日本ハムファイターズ v s 北海道社会人・大学選抜」の試合が開催されることになっております。

また、このほかにも、8 月 3 日から 5 日には、夕張市の宿泊施設ひまわりを拠点として、ファイターズベースボールアカデミー「サマーキャンプ」やファイターズダンスアカデミー「サマーキャンプ」が開催されることになっておりますし、3 日、午後 4 時からサングリンスタジアムにて、ファイターズのイースタン・リーグ選手による野球教室が開かれ、市内の野球少年団のほか、近隣の少年団が参加するとなっております。

このほかにも、4 日、午後 4 時からホテルマウントレースイにて、空知管内の自治体職員を対象としたスポーツマネジメントセミナーが開催され、約 50 人の参加を予定しているということでもあります。

また 4 日、午前 11 時には、サングリンスポーツヴィレッジ陸上競技場付近の駐車場で、車椅子ソフトボールのエキシビションマッチも開催されるということでもあります。

5 ページをごらんください。

6 月 13 日、札幌ドームでの共同記者発表には、このたびの開催 4 市町の首長、球団社長や栗山監督、空知総合振興局長が出席し、それぞれコメントをしているところでありますが、記載のとおりとなっておりますのでごらんいただければと思います。

6 ページは、広報ゆうばり 4 月号に掲載の内容を載せてあります。

そのほかに追加の資料で、1 枚もの、このような表裏 1 枚ものの資料がございます。これは新たなにつくっておりますチラシということになっておりますが、その裏面をごらんください。

今回、夕張市内では、大きく 2 日間にわたり事業が展開されますが、まず 3 日

の交流会であります。上段にありますとおり、参加費は1,000円かかる場所がありますけれども、市内販売につきましては、500円ということになっております。現在、700席の予定に対しまして、約400席程度が売れているというような状況を聞いております。まだまだ席に余裕がございます。写真にも載っておりますけれども、荒木大輔ファーム監督や豪華ファイターズOBが、これだけ揃ってのトークショー、抽選会というのは滅多にあることではないので、この機会に大勢の市民の方々に会場へ足を運んでいただければ幸いと考えております。

また4日には、サングリンスタジアムでプロ野球イースタン・リーグ公式戦が開催されます。

今回のサマーベースボールフェスティバルにつきましては、全て北海道日本ハムファイターズが主催となりますが、受入自治体としての協力が不可欠ということであり、このたびは4年前に市内に発足している北海道日本ハムファイターズタ張後援会を中心として、市役所ほか、主要団体に御協力をいただき、協力会を設置し、当日の運営におきましては、約90名のスタッフが必要となりますが、市民の皆様にも御協力をいただきながら準備を進めているところであります。

イースタン・リーグの試合につきましては、内野メインスタンド及び内野芝生エリアのチケットがほぼ完売ということになっておりますが、外野芝生エリアにつきましては、まだまだ余裕がございますので、こちらも市内外から大勢の方々に足を運んでいただければ幸いと思っております。

私からは以上です。

〔報告に対する質疑〕

(大山委員長)

それでは、これより報告に対する質疑を受けてまいります。

いかがでしょう。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

(大山委員長)

ないようですので、これで産業振興課を終わります。

それでは、次に、保健福祉課より、報告を受けてまいります。

【保健福祉課】

1. 市立診療所等の建設予定地について

(保健福祉課長)

それでは、保健福祉課より報告事項1件、申し上げます。

市立診療所等の建設予定地ということで、資料 1 をごらんください。

診療所の建設予定地について、市立診療所等は市民の利便生の確保の視点だけではなく、専門医療を確保し、将来にわたって持続可能な医療を提供できるかという視点が重要です。

この視点にたつて、指定管理者である豊生会や市医師会と協議を重ねたほか、社会医療法人制度の活用状況など、豊生会の運営実績や市内公共交通体系の議論の経過等を踏まえ、市立診療所等は「本庁・若菜地区」に移転改築することとしました。

建設予定地の選定にあたっては、こうした経過を踏まえ、下記のとおり市有地などから一定の条件を満たす候補地を抽出のうえ、下記の 2 の記載のとおり、評価項目について候補地ごとに分析・比較検討を行い、その中から建設予定地を決定したところであります。

下の欄をごらんください。

1 番、候補地の抽出条件。

(1)、敷地面積が 6,000 平米以上。

(2)、敷地内に既設の工作物がないこと。

(3)、南北軸から距離が、最低でも 500 メートル以内であること。

ということを候補地の抽出条件といたしました。

次に、候補地の評価項目であります。

(1)、敷地面積です。先ほど 6,000 平米以上ということで申し上げましたが、らに駐車場も含め、十分な面積が確保できるかどうかという点。

(2)、法令適合性、各種法令、例えば建築基準法ですとか、都市計画法ですとか、環境法令に適合しているかどうか。

(3)、災害対応性です。これは土砂災害防止法ですとか、夕張は急傾斜地が多いので、その崩壊危険箇所指定されていなかどうか。防災上、安全性が高いかどうかという視点です。

(4)、安全性です。ここは高齢者や障がい者などの利用者にとって、例えば信号ですとか、横断歩道ですとか、そういう部分で安全性が高いかどうかという視点。

(5)、利便生です。道道南北軸に面して、公共交通機関の利用が可能であることという視点。

(6)、周辺環境。近隣の住民等に与える影響が少ないかどうかという視点。

(7)、早期性です。後期が長期化に及ぶ可能性が低いかどうかという視点。

(8)、施行性です。工事施工にあたり、例えば広さですとか、災害対策ですとかという課題への柔軟性が高いかどうかという視点。

(9)、経済性です。大規模な土地造成等の付帯工事による費用増加の可能性が低いかどうかという視点。

(10)、除排雪対応性です。敷地内に十分な広さがあって、排雪場所が確保できるかどうかという視点があります。

3 の実際の建設予定地ではありますが、図面、お配りしていますので、その図面もあわせてごらんください。

(1)、住所は若菜 8 番地 12、13、14 になります。ここは、旧若菜中央小学校のグラウンドとその隣接地というイメージになります。

(2)の面積は、合わせて 1 万 6,000 平米、およそ 1 万 6,000 平米でございます。なお、グラウンド用地を含む市有地は、民間に貸与していたものでございますが、活用に向けて、既にグラウンド用地のみ返還を受けており、手続き関係は既に終了してございます。

(3)、所有者は夕張市です。

(4)、用途地域ですが、都市計画法に定める用途地域の一つで、環境保護するための地域を指し、ここは第 1 種住居地域と言いまして、診療所の建設が可能になります。

(5)、容積率ですが、容積率は延床面積の敷地面積に対する割合を言いまして、ここは 200%となっております。

(6)、建蔽率です。建蔽率は立床面積の敷地面積に対する割合を言いまして、ここは 60%というふうに定められています。

(7)、評価点ですが、先ほどから広さについて申し上げていますが、やはり十分な敷地面積が、ここは確保できているということ。次に、災害区域に指定されていないこと。夕張は急傾斜地の崩壊危険箇所という指定箇所が非常に多いのですが、ここはそういったことに指定されていない敷地になります。あと南北軸に面していること。それと夕張トンネルに近くて岩見沢市等にある 2 次救急医療機関へのアクセスがよろしいことという がございます。

なお、市立診療所の移転改築に当たって、今年度は基本計画を策定することとなつてございますが、昨年度に引き続き、市立診療所等移転改築検討協議会を開催して、計画策定を進めてまいりたいと思っています。

以上です。

〔報告に対する質疑〕

(大山委員長)

それでは、これより報告に対する質疑を受けてまいります。

(本田委員)

建設予定地の所有者の部分で、今、御説明の中に無償貸与している件に対する返還の手続きは完了しているという御説明が、さらっとありましたが、これは平成 26 年に北海道夕張倶楽部に土地、旧若菜中央小学校を無償貸与していた部分の、

この土地の、今回建設予定地として使用する部分の土地の返還についても、先方の了承を得られているという意味合いで受け取ってよろしいのでしょうか。

(保健福祉課長)

ただいまの、本田委員の御質問にお答えいたします。

委員、御指摘のとおり、この敷地というのは、北海道夕張倶楽部に貸与していた部分で、既に、その返還の手続きは終了しています。

(大山委員長)

よろしいですか。

(本田委員)

はい。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(君島委員)

道路とグラウンドの段差と言いますか、かなりあると思うのですが、その辺は、土地造成にかかわるようなことが出てくるのではないかと思います、どのようなところまで考えていますか。

(保健福祉課長)

首長、御指摘のとおり、あそこのグラウンド用地というのは、道道、とおった方、わかると思うのですが、やはりグラウンドと道路の敷地の段差があろうかと思えます。ただ、今は木が大分剥げていて、あそこの道路から見ると、一部盛り上がっている部分もあって、正確には現時点では、目視ではどのぐらいの段差があるかというのは、正直つかみ切れていない部分はあるのですけれども、おおよそ4メートルくらいかなと思っているのですが、今後、基本計画を策定して、測量して、基本計画を策定する中で、どんなふうに建設することが適当なのか、いろいろな方法があると思いますので、今後、煮詰めていきたいなと思っています。

(大山委員長)

よろしいですか。

ほかにございませんか。

(小林委員)

今、建設予定地の住所の部分で、若菜8番地、12、13、14となっておりますけれども、これらについては、グラウンドというか、その部分を含めてのこの辺の用地面積というのがあると、押さえておられるのか。それと、それ以外必要な、これからの建設予定地に大半が占めていけるのかという部分で、ちょっとお聞きしたいなと思いますけれども。

(保健福祉課長)

ただいまの小林委員の御質問にお答えいたします。

ここの、全体の面積は先ほど申し上げたとおり、1万6,000平米なのですが、それぞれ12番については3,400平米、13番については5,300平米、14番について7,300平米と。合計すると、おおむね1万6,000平米ということで、この敷地の中で、診療所をどのように建設するかというのは、これから話であります、効率的に建てていきたいな、検討していきたいなと思っております。

(小林委員)

わかりました。あと、私も6月議会で市立診療所の移転先、夏までに決定するという分でお話させていただきましたけれども、市長の答弁の中で、夏までの総合的に判断をされるということを知っていて、当然、今、夏ですから準備は間に合ったと聞いておりますけれども、多分、いろいろな選定をされたと思うのですけれども、ほかにも多分、候補地があったのだろーと思っておりますけれども、その候補地の中でも、総合的に判断したときに、ここに条件としての提示されましたけれども、その提示の部分というのが、ほかの、他の候補地があったと想定されますけれども、ここが1番、これらに合致していたという分理解してよろしいのですか。

(保健福祉課長)

小林委員の御質問にお答えいたします。

確かに本庁・若菜地区ということで、市有地を中心に選定しましたので、ほかにも実際、候補地はあったのですが、それを、さっき言ったような評価項目、10項目ですね、これに基づいて、優劣をつけて、どこが1番ベターなのか、100点満点ではないかもしれないのですけれども、1番適切どころ、特に広さですとか、防災対応性ですとか、優れていると思われる敷地を、今回、選定しました。

(小林委員)

わかりました。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(熊谷委員)

建設予定地の、この図のほうで、グラウンドに降りる道路というのが非常に狭いのですけれども、その辺はどんなふうを考えていらっしゃいますか。

〔「委員長、済みません、答弁調整お願いします」と呼ぶ者あり〕

(大山委員長)

答弁調整のために休憩いたします。

午前 時 分 休憩

午前 時 分 再開

(大山委員長)

会議を再開いたします。

(保健福祉課長)

熊谷委員のただいまの御質問にお答えいたします。

今年度、基本計画と、この後、設計ですとかというふうに事務をとり進めてまいります。その中で、どのように建設するか、まさにこれから話ですので、そういった作業の中で進めていきたいと思っています。

(大山委員長)

よろしいですか。

(熊谷委員)

はい。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

(大山委員長)

ないようですので、これで保健福祉課を終わります。

以上で、本日予定いたしました案件は全て終了しましたので、行政常任委員会を閉じます。

大変ご苦勞さまでございました。

夕張市議会委員会条例第 27 条第 1 項の規定により、ここに署名又は押印する。

夕張市議会 行政常任委員会

委員長 大山 修 二 ㊟